

平成16年4月23日
農林水産省 生産局

**食料・農業・農村政策審議会 生産分科会 畜産企画部会
第1回家畜改良増殖小委員会の概要について**

下記のとおり、食料・農業・農村政策審議会 生産分科会 畜産企画部会 第1回家畜改良増殖小委員会が開催されました。

記

1. 日時
平成16年4月23日(金) 10:00~12:15
2. 場所
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省本館4階第2特別会議室
3. 出席者
委員：[別紙のとおり \[PDF\]](#)
事務局：畜産部長、畜産振興課長、生産技術室長、畜産総合推進室長他
4. 議事概要
(1) 食料・農業・農村政策審議会 生産分科会 畜産企画部会 家畜改良増殖小委員会小委員長の選出
小委員長には金井専門委員が選出されました。
(2) 検討スケジュールについて
今後、畜種別研究会を開催して具体的な改良増殖目標の検討を行い、10月頃に開催予定の第2回家畜改良増殖小委員会に、家畜及び鶏の改良増殖目標の素案を提出することとなりました。
5. 意見交換
委員からの主な発言は以下のとおりでした。
(1) 基本的考え方について
畜産をめぐる様々な課題がある中、家畜の改良は生産性向上の基本であり、施策の効果も大きい。このことを生産者に訴え、消費者等に理解してもらうことが重要。
家畜改良は個々の生産者では困難であり、国、都道府県等公的機関がかかわるべき重要な政策分野と位置づけるべき。
家畜の生産性が向上する一方、家畜をいかに健全に飼うかという面にも目を向ける必要。
改良目標には、生産効率の目標と経済効率の目標があり、わかりにくい面がある。生産効率の向上が経済的にもメリットがあることを示すことが重要。
畜産が環境にどのような負荷を与えているのかという視点も必要。
(2) 各畜種の目標について
乳用牛については、改良すべき項目は多岐にわたるが、目標はできる限り単純化した方が実用的である。
肉用牛については、脂肪交雑志向があり、肥育期間の短縮が進まない。肥育もと牛の適正出荷や産肉能力の改良によって、25、26ヵ月齢でも十分な肉質の牛肉が作れることを生産者等に理解してもらうことが重要。
豚については、系統豚の造成を各都道府県で行っているが、効率化のためには複数の県で協同して行うことも必要ではないか。また、飼養管理面で、コストの6割を占める飼料費を減らすため、食品残さの利用についても検討してはどうか。
鶏については、海外と競争するためには高品質化に関する視点が重要であり、品質に関する評価法の確立が課題。
農用馬、乗用馬については、地域資源としての考え方、遺伝資源の保存という考え方も重要。

めん山羊については、めん羊の水田放牧や山羊乳の利用等の視点も必要である。

問い合わせ先

生産局 畜産部 畜産振興課

高橋、野間

TEL 3502-8111 (内線3896、3898)

3591-6745 (直通)

別 紙

家畜改良増殖小委員会委員名簿

| | | |
|--------|--|----------|
| 阿部 亮 | 日本大学生物資源科学部動物栄養科学教授 | (学識経験者) |
| 金井 俊男 | (財)日本食肉流通センター専務理事 | (馬・めん山羊) |
| 竹林 孝 | 北海道農政部農政課長 | (都道府県) |
| 富樫 研治 | (独)農業・生物系特定産業技術研究機構 北海道農業研究センター畜産草地部長 | (乳用牛) |
| 番場 久雄 | 愛知県農業総合試験場畜産研究部長 | (鶏) |
| 向井 文雄 | 神戸大学農学部応用遺伝学教授 | (肉用牛) |
| 吉田 小夜子 | 養豚自営業 (群馬) | (豚) |